



大崎豊饒の大地に 個性豊かなまちづくりを

大崎市長職務執行者 佐々木謙次

平成十八年三月三十一日に大崎市が誕生しました。大崎十四万市民の夢と希望を託されての門出です。新大崎市長が選出されるまでの間、市長の職務を執行させていただくことになりましたので、よろしくお願ひ申し上げます。

今、地方行政は、地方分権や規制緩和の推進により、変革の時期を迎えています。その一方で国の行財政改革、さらには、少子・高齢化や地球規模での環境問題など、多くの課題が山積しています。このような時代の中で、行政ニーズの確な把握に努め、市民福祉の向上や地域資源を生かした自立的で持続的な発展を目指していくことが求められています。こうしたことから、歴史的に生活経済圏として一体性を有する一市六町は、将来の持続的発展と真の地方自治の確立を図るため、市町村合併を選択し、歴史的な今日を迎えました。

この度、合併いたしました古川、松山、三本木、鹿島台、岩出山、鳴子、田尻では、これまで長年培ってきた特有の歴史と文化があります。大崎市は、各地域のこうした伝統・文化などを守り育て、次代へ継承しながら、大崎市十四万市民が一体となって新しい歴史を築き、県北の拠点都市と呼ぶにふさわしい「大きな虹が輝く個性豊かなまち」を実現するものと確信しています。

新しいまちづくりにあたって、これまでのものを守り育てること、今あるものの新しい活用を図り付加価値をつけること、役割を終えたものを取り除くことが必要になります。大崎市民病院は、四つの病院と一診療所がひとつの病院となり、市民の健康を守ります。産業や観光においてもそれぞれの地域の持つ力を合わせることで、これまでよりもより一層力を発揮することが期待されます。

また、大崎市流の地域自治組織についても、これまで協議してきました。大崎市流地域自治組織とは、画一的な組織ではなく、地域住民の方々の活動を大切にすることです。町内会などの自治的組織、地区振興協議会などの地域づくり委員会、七つの市町のまちづくり協議会などの活動が始まり、市では地域自治組織が活発に活動できるよう、人的支援や財政的支援を行うこととしています。

今ここに、豊饒の大地から平成デモクラシーが幕開けしました。市民皆様が生きがいを持ち、「合併してよかった」といわれるようなまちづくりを実現するため、私も職務執行者として短期間ではありますが、全力で努力してまいりますので、市民皆様におかれましても、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。